サルー
Salud!★ 26 号
2018 年８月８日

●キューバ友好円卓会議　通信
e-mail：cuba.entaku.0803@gmail.com
FAX　03－3415－9292　　http://cubaentaku.web.fc2.com/
〒157-0073　東京都世田谷区砧 8-15-14-101

目次
■ディアスカネル氏の印象／岩垂弘…２　■ディアスカネル氏に大いなる関心を覚える／河内茂幸…２　■松尾光の「キューバ右往左往」⑤…３
■竹村淳さんが世界の反戦歌を紹介する本を出版／岩垂弘…７　■映画『レオニー』上映とトークの会…７　■キューバから届いた西日本豪雨へのお見舞い…８　■フィデルの面影 ― 2017 年 10 月キューバツアーのアルバムから／杉本茂樹…８

2018 キューバ友好フォーラム

9月22日（土）

13:30～16:30　開場 13:00

★事前申し込みは必要ありません

参加費　1000 円（会員　500 円）

会場　**日本記者クラブ大会議室**

TEL 03－3503－2721　東京都千代田区内幸町２－２－１
日本プレスセンタービル９階

東京メトロ千代田線・日比谷線「霞ヶ関駅」Ｃ４出口、丸ノ内線「霞ヶ関駅」Ｂ２出口、都営三田線「内幸町駅」Ａ７出口、ＪＲ「新橋駅」日比谷口（ＳＬ広場側出口）

カストロからディアスカネルへ

どうなるキューバの新時代

２０１６年６月２日、来日記念パーティー会場でのディアスカネル氏（右）、左はマルコス・ロドリゲス駐日キューバ大使

キューバの人民権力全国会議（国会）は 2018 年４月 19 日、ミゲル・ディアスカネル氏を新しい国家評議会議長（元首）を選出しました。フィデル・カストロ氏、ラウール・カストロ氏に次ぐ３代目の国家評議会議長で、58 歳。1959 年のキューバ革命後に生まれた“革命を知らない世代”ですから、今回のトップの交代によりキューバは新しい時代に入ったと言ってよいでしょう。

新しい世代の登場により、キューバは変わるだろうか。国交を回復した米国との関係はどうなるのか。そして、ラテンアメリカ諸国や日本との関係は？　私たちの関心事は膨らむ一方です。そこで、キューバの新しい状況に詳しいお２人にキューバの現状とこれからの展望を語っていただきます。　（２ページに関連記事）

講演１　若者に魅力ある社会に脱皮できるか

ジャーナリスト　**伊高浩昭さん**

いだか・ひろあき。1943 年東京生まれ。立教大学ラテンアメリカ研究所学外所員、元共同通信記者。67 年から半世紀余りラ米情勢を取材。キューバ関係の著書に『キューバ変貌』『ラ米取材帖』『チェ・ゲバラ　旅、キューバ革命、ボリビア』など、訳書に『フィデル・カストロ　みずから語る革命家人生』『フィデル・カストロ後のキューバ』『カストロ家の真実』など。

【講演要旨】キューバ革命の最高指導者フィデル・カストロ革命軍最高司令官の死去から間もなく２年、ミゲル・ディアスカネル国家評議会議長の就任から小半年、革命政府はラウール・カストロ共産党第１書記（前議長）の指導下で、1976 年社会主義憲法の大幅改定作業を進めている。その狙いは、制度疲労している行政機構を柔軟にして同機構、ひいては社会主義体制そのものを延命させ、併せて、若い世代に出国を思いとどまらせられるような「魅力」を醸しだすこと。改憲は年末以降に実施される国民投票で 実現する見通し。だが改憲を含むあらゆる改革の歩みが余りにも遅く、慎重すぎるとの批判・不満が噴出している。

講演２　サルサとスペイン語を習いにハバナへ

会社員　**山田砂波麗さん**

やまだ・さはら。1986 年生まれ。幼少時より、親の都合で、アジア、アフリカ、中東などリスキーなところへ引き回され、海外渡航歴多数。高校・大学でタイのチェンマイやアメリカのカンザスへ留学。卒業後は電気機械会社で営業・通訳に従事。昨年、ホーチミンに居住。

■問合せ■　キューバ友好円卓会議へＦＡＸかe-mailでお問い合わせください。

まだ若いのになかなかの風格

身近に見た新国家評議会議長

ディアスカネル氏の印象

岩垂 弘　ジャーナリスト／キューバ友好円卓会議

来日記念パーティーでキューバの歌を披露したディアスカネル氏（右）

この人がカストロ兄弟の後を継ぐキューバの新しいトップリーダーか。まだ若いのに風格を感じさせる政治家だな――2016 年６月２日午後７時過ぎ、東京・虎ノ門のホテルオークラの宴会場の一室。私の前に現れた長身のキューバ人男性を間近に見ての印象はそのようなものだった。

この男性こそ、今年４月 19 日にキューバの人民権力全国会議(国会)でキューバの最高ポスト・国家評議会議長に選出されたミゲル・ディアスカネル氏だったのである。

私がホテルオークラでディアスカネル氏を見た時、彼は国家評議会第一副議長だったが、キューバの政治に詳しい人の間では、当時、国家評議会議長だったラウール・カストロ氏が２年後の 2018 年春に議長を退き、ディアスカネル氏がその後を継ぐと言われていた。

そのディアスカネル第一副議長が日本を訪れたのは 2016 年の５月 31 日から ６月４日まで。日本外務省の招待で、初来日だった。滞在中、安倍首相、麻生副総理、岸田外相らと会談したが、日本政府がこうした厚遇で応じたのも、同氏が２年後には国家評議会議長に就任すると見ていたからだろう。

来日の前に同氏はロシア、ベラルーシを訪問し、その帰途に日本に立ち寄ったとのことだった。キューバ事情に明るいジャーナリストは「キューバ政府としては、議長就任を見越して彼に３国訪問をさせたのだろう。つまり、帝王学の一環としての外遊だったのでは」と語ったものだ。

日本滞在中の６月２日、駐日キューバ大使館が日本の政府、政党の代表、経済界関係者、友好団体代表らを招いて第一副議長来日記念パーティーをホテルオークラで開いた。私も招かれたため、そこへ出かけて行ったのだった。

第一副議長はこの時、56 歳。見るからに長身で、がっしりした体躯だった。エネルギッシュな風貌と銀髪が印象に残っている。気さくな人柄のようで、パーティー会場で、在日キューバ人のバンドの伴奏でキューバの歌をうたい、踊った。（写真）

スピーチでは、キューバ政府の最大目標は経済発展だと強調、日本に協力を求めた。

キューバ中部のサンタクララの生まれ。エンジニア出身。1993 年にキューバ共産党に入党、その後、州党委員会第一書記、政治局員、高等教育大臣、国家評議会副議長を経て、2013 年に国家評議会第一副議長兼閣僚評議会第一副議長に就任するなど、エリート街道を駆け上がってきた。カストロ兄弟の信頼も厚いとされる。

カストロ兄弟が持っていたようなカリスマ性に欠けるが、これから先、どんな手腕を見せてくれるだろうか気になるところだ。

キューバから届いた豪雨のお見舞い

2018 年 7 月 13 日、ハバナ市
“革命 60 年目の年”

日本のキューバ友好連帯組織・団体 御中

親愛なる友人の皆さん
私たちは痛切な連帯の思いを胸に、この度、貴国の一部の地方を襲った豪雨による大規模な被害について、心よりお見舞い申し上げます。この記録的豪雨により、大勢の人命が失われ、甚大な物質的被害が発生しました。
友人の皆さんとそのご家族が、今回の自然現象で被災されなかったことをお祈り致します。

120 年前に日本人が初めて我が国に移住して以来、両国を結ぶ変わらぬ友好の絆のもとに、キューバ国民の友情と連帯をお約束致します。
この度の損失と被害に対し、衷心よりお見舞い申し上げます。
心からのご挨拶を込めて。

ＩCAP（キューバ諸国民友好協会）副総裁
ホセ・プリエト・シンタド

ディアスカネル氏に大いなる関心を覚える

河内茂幸　翻訳家／キューバ友好円卓会議

ディアスカネル氏はカストロ兄弟に比べるとメディアで取り上げられる割合が決して多くなく、窺い知ることが難しい面がありますが、能力・手腕等でラウール氏から絶大な評価を受け、かなり前から後継者として決定されていた由、“新時代”においてもラウール氏の政治路線を踏襲するように思われます。

一方、2016 年 12 月に霞ヶ関の記者クラブでお会いしたオマール教授(同教授は英語やスペイン語の外国メディアに時々登場します）のように、経済ではベトナム型の経済を強く志向し、政治でも‘新しい社会主義’のようなビジョンを考えている中年世代が存在します。

さらに、大学生から 30 代前半ぐらいまでのもっと若い世代においては考え方や志向性も上述の人々とは大幅に異なる人々が大半でしょう。これら若い世代には、大学で医学、先進テクノロジー、経済学などを優秀な成績で修め、自身の活躍の場を自由な空間に求める（とくにベンチャービジネスなど）新しい傾向が見られます。

革命のレガシーである教育と社会保障そして‘新しい社会主義経済’を、新しい世代に対して政治がいかに展望の開けるものすることができるのか、このことがミゲル・ディアスカネル氏の課題であるように思います。日本のメディア空間においては、新時代のキューバについてかなりの考察をもって取り上げられたものを見聞きすることがありませんので、今回のフォーラムにはぜひ出席したいです

連載 ★ 渡航歴30回、滞在日数約２年

白根 全の
キューバの 呪い ⑤

建築物からキューバ革命考古学の遺跡群と偉人伝が見えてくる

あっけらかんと素顔を晒している旧市街

それにしてもハバナの街は不思議だ。植民地時代の歴史的遺産に港街特有の猥雑で下世話な雰囲気が同居し、その上から社会主義のスパイスを振りかけてさらに熟成させた、ほかのどの街とも違ったテイスト。

甘くて苦くて濃くて、色気や飾り気はなくても艶っぽい。夜になると街灯のない旧市街の通りは闇に沈み、人はまず細やかな気配からしか存在がうかがえない。とくに黒服姿の黒人系ともなるともはや輪郭すら判別不能で、月夜の晩でも白目と歯ぐらいしか視界には捉えられない。

革命前のハバナは西半球でもっとも退廃した街とされ、東洋の魔都シャンハイと並ぶ悪の迷宮だった。麻薬や売春、賭博などアメリカではご法度とされる悪事のすべてがそろっており、その現場を仕切っていたのは禁酒法時代のアメリカで勢力を拡大したイタリア系などのマフィア組織。腐敗した独裁傀儡政権がその上前をはねる、不正と暴力が支配する世界だった。退廃のハバナをたった一枚の写真で表現しきったアメリカの写真家ウォーカー・エバンスの写真集『HABANA 1933』の作品を思い浮かべながら、その残滓をさがし回る

当初は過剰に警戒しながらうろついていたが、すぐに無駄な抵抗は不要なことに気づいた。殺気ゼロ、襲われる気配もまったく無し。どんなに怪しげな暗い路地に踏み込んでも、息詰まるような圧迫感はたちまち溶け去って行く。崩壊しかかった建物が並ぶ旧市街でも、それを隠したり飾り立てたりしないままあっけらかんと素顔を晒しているのが際立つ。表側だけを取り繕った他の社会主義国とは、まったく路線が異なるようだ。

確かに1959年1月1日、独裁者バティスタ大統領がドル札束の詰まったスーツケースを抱えてドミニカに逃亡し、キューバ革命が成立した後、髭のカストロがまず取り組んだのは中高生を動員した識字運動であったり、農村への電気の供給であったりと、その政治的センスは過激なまでに異なる。濃い目の排ガスをまき散らしながら走る現役の50年代アメリカ製クラシックカーの雄姿とも相まって、地球上唯一無二の景観を演出している。

それぞれ時代ごとの象徴ともいうべき存在は、まず旧市街の中心に立つカテドラル。18 世紀に建てられたコロニアル・バロック様式の教会で、コロンブス以降のスペイン統治時代を象徴する。さらに、旧国会議事堂だったカピトリオ（現・科学博物館／写真右）は1929年に建てられたアメリカの国会議事堂の縮小版コピーで、砂糖景気でもたらされた富を原資にしたアメリカによる支配がその背景にあったことをダイレクトに表している。

つまりはカピトリオそのものが、米西戦争後のキューバの独立が仮初めの虚構であったことを証明しているわけだ。そして、革命キューバを代表する建物といえば1954年に建てられたキューバ内務省（写真左）、革命広場に面してチェのレリーフが正面に飾られている。もともとは会計検査院が入っていて、その時代には腐敗した独裁政権による国家予算の不正収奪を隠す拠点でもあった。

ほかに、キャバレー・トロピカーナの楕円形の演奏壇や映画館シネ・ヤラ、ホテル・リビエラなど、建築物からキューバ革命考古学の遺跡群と偉人伝が見えてくるのが興味深い。トロピカーナの舞台にはオフシーズンで出稼ぎにきたナット・キング・コールが出演し、その宿泊先だったホテル・リビエラのオーナーはイタリア系マフィアのボス、ラッキー・ルチアーノの右腕だったロシア系ユダヤ人のマイヤー・ランスキーといった具合である。

ともあれガイドブックの紹介ページを埋めるため、観光

ルートを設定し、撮影をこなしていかなくてはならない。旧市街のカテドラル前広場で、いきなり「メキシコ人か？」と声をかけられたのがきっかけで知り会ったダニエル一家は、ヘミングウェイの邸宅フィンカ・ビヒアの斜め後ろに住んでいるという。彼は勤務先の工場が停電で来週まで閉鎖中なので、家族連れで外国人観光客を観光？ していたとのこと。地元民の彼にヘミングウェイ博物館として公開されているフィンカ・ビヒアを案内してもらうことにした。 （続く）

しらね　ぜん

日本で唯一、世界中でも２人しかいないカーニバル評論家、ラテン系写真家。東京出身。青山学院大学卒。仕事（撮影取材調査渉外観察記録編集企画制作など）その他（探検冒険踏破潜入縦断横断登攀釣魚沈没など）さまざまな理由で現地に入り浸っている。人類 400 万年の旅グレートジャーニーのサポート、コーディネートも担当。これまでに訪れた国は、６大陸、150 カ国超。ラテンアメリカとカリブ海域の主なカーニバルはすべて制覇。
定点観測と路上観察を続けているキューバは、1989 年以来、30 回目の訪問をマークした。

BOOK

竹村淳さんが

世界の反戦歌を紹介する本を出版

岩垂 弘　ジャーナリスト／キューバ友好円卓会議

昨年９月に開催したキューバ友好フォーラムで「キューバ音楽と日本人」というテーマで講演をしてくださった音楽ジャーナリストの竹村淳さんが、『反戦歌　戦争に立ち向かった歌たち』と題する著書を出版されました。

竹村さんは、日本が太平洋戦争で無条件降伏した時は８歳で、国民学校（小学校）３年生だった。それから 70 年余り。日本では戦争と直接関わりのない歳月が続いてきた。それは世界に誇るべき素晴らしいことであり、素直に喜んでいいことだと思ってきた。

ところが、ここ数年、日本をまた戦争が出来る国にするべく手はずを整えようとしているように思われ、またぞろ日本に戦争の足音が近づいているような不穏な空気を感じきた。

このため、「戦争を経験した者として、戦争は絶対にだめだ！と伝えなくてはと思った。戦争は相手国はもちろん、自国民の人権をも無視し犠牲にし、国土を疲弊させ、国富を消費し、誰をも不幸にする。そのことを一人でも多くの人になんとしても伝えなければ、と心の底から思った」という。

そこで、思いついたのが世界中の反戦歌について書いてみよう、ということだった。これまで人生で深く関わってきたのは音楽だから、その力を借りて心ある人びとの注意を喚起できるなら、戦争をしたい邪悪な連中と多少なりとも対決できるのでないかと感じたからだという。

世界の反戦歌について調べ始めると、それはおびただしい数にのぼった。その中から 23 曲を選び、各曲の歴史やエピソードをつづった。その内訳は、脈々と歌い継がれてきた反戦古謡が４曲、第１次世界大戦時のものが２曲、第２次世界大戦と原爆に関するもの５曲、インドシナ戦争・アルジェリア戦争・朝鮮戦争・ベトナム戦争に関するもの８曲、その他の戦争に関するものが４曲となっている。
この中には、ボブ・ディラン（アメリカ）作詞・作曲の『戦争の親玉』が含まれている。

ここで歌われているのは、現代の戦争は昔のそれのように侵犯してくる敵との戦いとか、民族同士の争いとか、宗教上の対立といった人間くさい確執に起因するものではなく、戦争をビジネスとしている戦争屋が金儲けのために引き起こす戦争や軍需を喚起するための戦争が多いのではないか、ということだという。「ディランはこの１曲だけでもただ者でなく、ノーベル文学賞にふさわしい逸材であることが分かる」と竹内さん。

目立って反戦歌が多いのはフランス。“反戦歌大国”と呼びたくなるほどだという。そのフランスから４曲が選ばれている。

日本からは５曲が選ばれているが、目を引くのは、美空ひばりが歌った『一本の鉛筆』だ。彼女は 1974 年８月９日に開かれた第１回広島平和音楽祭でこれを歌った。

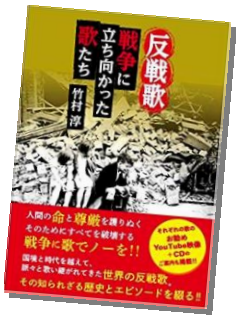
「一本の鉛筆があれば　戦争はいやだと　私は書く」。作詞・松山善三、作曲・佐藤勝。彼女は当時、34 歳。美空ひばりと反戦歌というと、なにかそぐわないという印象があるが、竹村さんによれば、彼女は 1945 年５月 29 日に米軍機による横浜空襲を経験し、戦争の恐ろしさを身をもって知っていた。そうした往時の体験が、反戦歌に向かわせたのではないか、という。

「ざわわ　ざわわ　ざわわ／広いさとうきび畑は」で始まる寺島尚彦作詞・作曲の『さとうきび畑』も選ばれている。1964 年にまだ米軍の統治下にあった沖縄を訪れた寺島が、沖縄戦の激戦地、摩文仁の丘で地元の人から聞いた言葉に触発されてこの曲をつくったとされる。

本書の中で、竹内さんは、こう書いている。「人類の叡智といえる反戦歌の傑作の数かずをとおして知っていただいた戦争の惨たらしさや空しさを、様々な方法で発信し拡散していただき、戦争は嫌だ！と願う仲間を増やしてもらいたい」

反戦歌
戦争に立ち向かった歌たち
竹村淳 著

（株）アルファベータブックス
（03-3239-1850）
定価 2000 円＋税



映画「レオニー」（松井久子監督制作脚本）

上映とトークの会

日時 **8月26日**　上映　14:00～

世界的彫刻家イサム・ノグチの母レオニーを描いた長編映画の上映と監督のトーク。
トークと交流　16：30～

参加費　2000 円（飲み物、手作りおつまみ付き）

会場　Cafe y Libros　TEL　03-6228-0234
東京都品川区上大崎 2-20-4（ＪＲ目黒駅より徒歩５分）

申込み　info@essen.co.jp／info@cafeylibros.com
※定員になり次第締め切らせていただきます。

9月 24 日まで東京オペラシティアートギャラリーにて「イサム・ノグチ回顧展」開催中！
東京都新宿区西新宿 3-20-2　TEL 03-5777-8600（ハローダイヤル）

連載

サンクティ・スピリトゥスで孤軍奮闘

松尾 光のキューバ右往左往 ⑤

1月から7月までの生活は精神的にとてもつらい日々だった。2度とキューバに行くものかと思う一方、これで諦めてなるものかの気持ちが交錯する。

個人プロジェクトの限界　あまりにもひどい大学の対応

（左から）イズダレー副学長、メキシコから来た国際交流基金の松田日本語教育専門家、ナイマ学長（女性）、私、交渉のためにハバナから来た在キューバ日本国大使館本林書記官。学長に会うのに４カ月かかった。

講座を始めて ２年。今回は個人が計画したプロジェクトの限界を思い知らされる。

それにしてもサンクティ・スピリトゥス大学の対応は、あまりにもひどい。日本人、日本語、日本文化講座を完全に無視している。３月から毎日のように問い合わせて７月13 日にようやく結論を言われる。

理由は最後まで伝えてくれなかった。政治体制のせいなのかもわからない。大学学長、副学長、国際関係の責任者の顔は２度と見たくない。

結論はビザを延長しないということ。理由もいわず、日本語講座についての意見も言わない。状況から推測するしかない。昔の中国やソビエトのようだと留学や働いた経験がある友人はいった。

１月

日本語講座はすぐに開始

着いた翌日からすべてが始まった。欠席は相変わらず多いが、学習者は皆とても心待ちにしていたようだ。

講座を行うアシスタントのブアスキンさん

ブラスキンさんの講座を見学する日野さんと娘

２月

もりだくさんの行事

日本語講座は一部アシスタントが運営している。娘、大学同級生で医者の松岡さん、日野純さん続々訪問

１．大学同級生　松岡さん

高校先輩、大学工学部同級で卒業後、医学部にすすみ最後は東大の医学部で博士号をとった異色の友人。私の活動に共感して忙しい合間時間を作り旅行を計画、サンクティ・スピリトゥスを訪問した。学習者との交換、夕食、翌日の観光と話続け密度の濃いひと時をすごす。

松岡さんと学習者との交歓

２．フィディリスト日野純さん

日本、キューバで４回目の出会い。娘とのトリニダ観光、娘のサンタクララ観光、そして武蔵野大学との交歓会も同行してくださった。

３人でトリニダへ

３．娘　茜訪問

ブータン勤務を終え、修士号取得をするため京都大学に入学する合間の訪問。

エコツーリズムで有名なコスタリカへの親

子旅行を計画してくれた。

サンクティ・スピリトゥスでは日本のツーリズムについて英語で講演。

娘の英語プレゼン

サンタクララでは居合いの達人ギジェルモさんに案内をお願いした。

移民 120 周年パーティ

ハバナ大学エルディスさんと

居合キューバ会長のセサさん、ＪＩＣＡ専門官小林さんの奥さんと住友商事事務所長と

16 日夜在キューバ日本国大使館で移民 120 周年のパーティがあり出席。キューバ訪問中の佐藤外務副大臣にご挨拶。ハバナで知り合ったたくさんの人に娘を紹介できた。日系人会会長のミヤサカさん、秘書のアラカワさんとも。商社双日勤務だ。実ビジネスはなくＪＩＣＡのインフラ整備仕事が主だそうだ。ビジネスはキューバでは、まだまだのようだ。

武蔵野大学との交流

武蔵野大学学生とサンクティ・スピリトゥス大学学生

2 月 25 日に武蔵野大学と交流を行った。当日はアクシデントがかさなり結局２名の参加。とてもいい雰囲気の会だった。ハバナ大学の学生との交流も私がセット。当然ではあるが日本の学生は旅行者の目でキューバのいいところだけをみている。

武蔵野大学学生とハバナ大学学生

３月

ＪＩＣＡの開所式

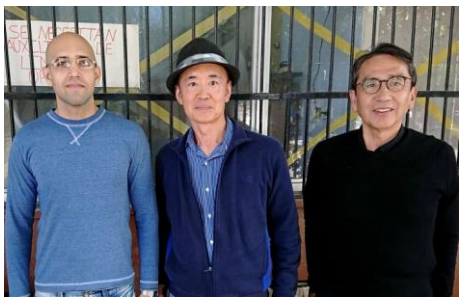
ＪＩＣＡ小沢所長と職員２名、岡本政務官、キューバ国産業大臣、渡辺在キューバ日本国大使

ＪＩＣＡは 1 月にキューバ事務所を開設した。開所式に招待された。公明党の岡本外務政務官が日本からかけつけ、キューバと日本の親善を祝った。キューバからは産業大臣が出席。安倍首相が来られてから、人の交流がますます進んでいる。

サンクティ・スピリトゥスの「松尾」は知られている。とてもいい雰囲気だった。アメリカに遠慮して表立っていっていないが、キューバでのインフラ援助は革命後すぐからの歴史があるようだ。

ハバナでＪＩＣＡの専門官と会う

ＪＩＣＡの小林さん（写真中央）とハバナ大学へ訪問。ＪＩＣＡはシニアボランティアをハバナ大学へ派遣検討中とのこと。私がババナ大学教師を紹介した。実施は 2019 年の秋ごろとのこと。まだ未定。



４月

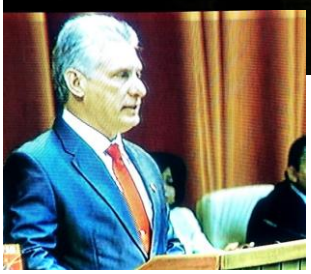
大学のイベント

４月３日に大学のイベントにピアノと学習者の日本の歌を披露した。ピアノ独奏はまずまずだった。

いよいよディアスカネルが指導者に

いよいよトップの交代だ。ハバナだけのイベントのようでサンクティ・スピリトゥスの街は平穏だ。

トランプ政権の影響もあり国交回復の機運はうすれ、キューバ人の生活はほとんどかわらない。貧富の差は広がった印象もある。



ラウール・カストロ氏（右）とディアスカネル氏

ディアスカネル氏の演説

いずれもＴＶ画面から

５月

母の日ー学習者の家庭事情

「キューバでは母の日は盛んだ。母の日にプレゼントを買い母親に感謝する。学習者の家庭は１人っ子や２人きょうだいで母親だけとか、祖父母と暮らすとかで少人数の家庭が多い。離婚が当たり前、男の働く場が少ないなどで父親の存在が薄く感じる。

行政幹部、教師、大学教授、医者も半数以上女性で社会的にも自立している。同居家族が少ないのは寂しいが、これもお国柄。少子化なので特にこどもは宝だ。そして女の子 15 歳が特別だ。着飾り化粧をして成長を祝う。

日本人が続々サンクティ・スピリトゥスに
セペタの奥さんとも会う

日本人が続けて３人訪問した。日本人はツアー旅行が多く、ここは観光ルートではないので、いままで訪問者は無かった。

まず正村さん。シドニー在住で会計業務についている。サンクティ・スピリトゥスでの私の活動にとても理解を示しFacebook に書いていただき感激する。

近くのレストランで正村さんと

次は信州大学繊維学科大学院１年生。大学を休学して北米、南米、キューバを自転車で回っているとかで好青年。繊維学科はめずらしいが就職先には困らないそうだ。

信州大学院生と

次は淡路香織さん。働きなら、キューバ友好会議常任理事の要職。若々しく美しい女性だ。

学習者の家庭で香織さんと昼食

楽しい週末だった。最後はセペタの奥様と偶然に会う。セペタはキューバ政府公認の日本プロ野球選手の第１号だった。

セペタの奥様

日本テレビの取材

５月のビックイベントは日テレ（中京テレビ）の取材である。私の生活や授業風景、生徒との懇親を撮影した。

お盆明けの８月 16 日 19 時に放送する。私の分は 10 分ぐらいの映像と思う。娘のブータンと同様に、視聴率稼

撮影風景　学習者は 20 人ぐらい

ぎに多大の演出がある。テーマは「キューバで優雅に暮らす年収 400 マン」。お笑いタレント・タカアンドトシの進行のバラエティー番組だ。

なぜ私に白羽の矢があたったか不明。キューバの素朴で真面目な人達とのあたたかい交流を示すよい記念と思う。

カメラマン（左）、デレクター（左から3人目）、アシスタント（私のとなり）

学習者筆記試験通る　面接は残念

成績優秀者日本派遣選考試験があった。キューバから１名が、すべての費用を国際交流基金持ちで日本へ行ける。キューバ、特にハバナ大学は中米カリブ諸国 NO１の実力なのでそれを抑えてパスするのが大変なのだがペーパー試験を１名 Pass した。快挙と思う。でも面接は無理だった。本林書記官が田舎にもかかわらず真面目に勉強している、日本で勉強する実力があると評価してくださった。学習者をいつか日本へ行かせたい。

成績優秀者選考試験サンクティ・スピリトゥス大参加者。ハバナへ試験を受けにいくのがとても大変だった。

６月

新しい道　高校で日本語講座開設

大学でのビザの取得はだめだが思いもよらない新しい道が開かれた。今年一杯は諦めないことにした。私の惨状解決に情熱をもつ学習者の努力のたまものだ。高校での日本語講座開設だ。高校の関係者は日本についてとても興味を示して日本語講座開設を約束した。ビザの問題が解決する。でも２つの問題が。

日本語講座を開くＩＰＶＣ高校
環境はいい。

１．日本の支援が受けられるかわからない。経済的に逼迫する。東京の家族に貧乏をしいることになり、きっとよいとは思わない。

２．89 歳の父の体調が悪い。私は１人息子。再三国際電話で安否を問いている。私と話すと元気なようだが、ヘルパーさんの報告が良くない。キューバの活動を全面支援している父だが、介護するのは私だけ。そのために横浜を離れられないリスクを抱える。

ディアスカネル氏がサンクティ・スピリトゥスへ

コーヒーショップに学習者といると、突然ディアスカネル氏が入ってきた。あわてて写真をとる。そしてなんと私に握手を求めてきた。穏やかな笑顔と柔らかい手だった。

サンクティ・スピリトゥスのクビタコーヒーショップに突然ディアスカネル氏が現る。

聴くところによるとディアスカネル氏はいまキューバ中をまわり、各地の様子を把握しているらしい。アメリカとの国交回復となったが、キューバ中に問題は山積している。これからの手腕に期待だ。

７月

私の誕生日　お祝いの会を行う　７月６日

日本語クラスは１年を終える。最後の試験をして、私の誕生日のお祝いをする。劣悪な環境の中で続けてくれた学習者はみな 70 点以上をとっている。ほんとに勉強したい人だけが残ったと思う。

当日は日本語講座の責任者のペドラ副学部長と友人の英語ができる教授も同席した。皆が私の誕生日を祝い楽しそうにしていた。大学幹部とのあまりの落差に唖然とする。

私が作った日本食でお祝い